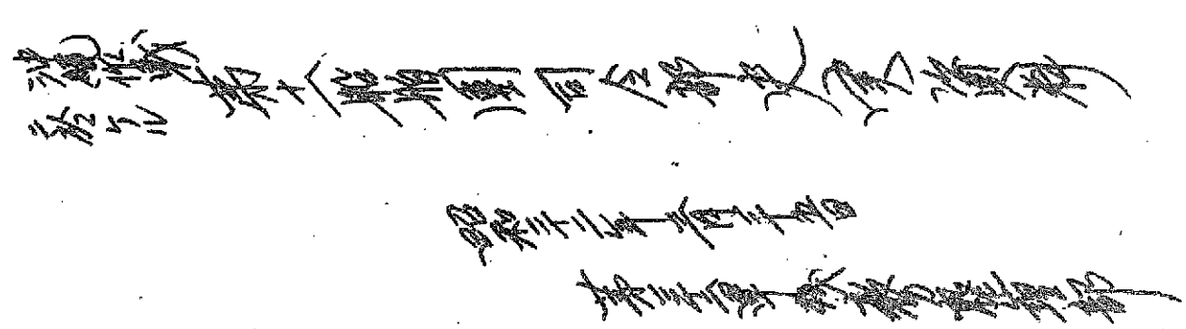


一仰歟法規法初ノ編ハ外務及法務
人事官之合議ヲ以テ編ハ及修道

軍艦掛

長　第十一船舶国長　大迫大佐

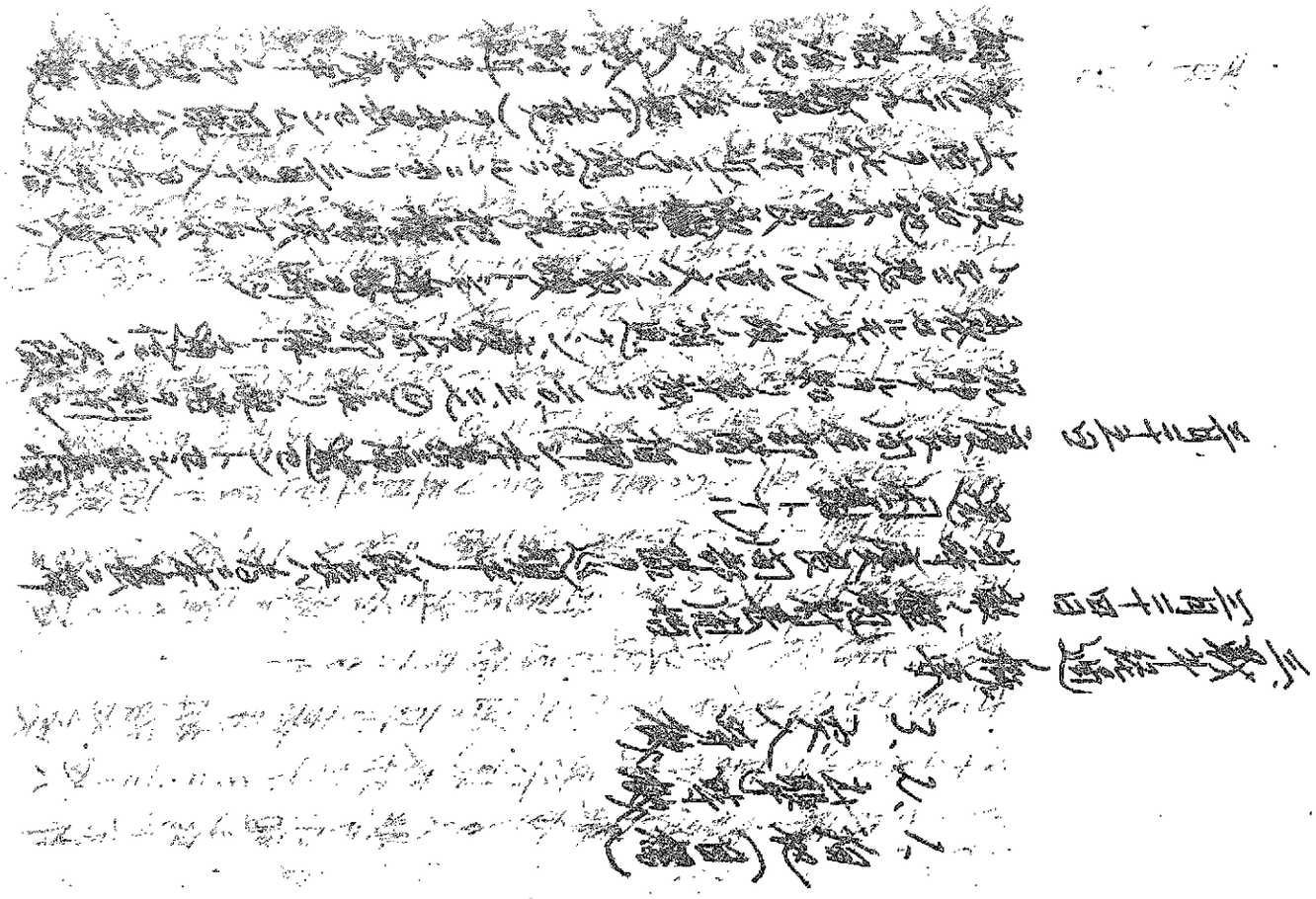
第一局　第二局　第三局　第四局　第五局　第六局　第七局　第八局　第九局　第十局

第一部　首里
第二部　首里
第三部　首里
第四部　首里
第五部　首里
第六部　首里
第七部　首里
第八部　首里
第九部　首里
第十部　首里

第一部　三十六
第二部　三十七
第三部　三十八
第四部　三十九
第五部　四十
第六部　四十一
第七部　四十二
第八部　四十三
第九部　四十四
第十部　四十五

軍艦掛
軍艦掛
軍艦掛
軍艦掛
軍艦掛
軍艦掛
軍艦掛
軍艦掛
軍艦掛
軍艦掛

（一）名簿
（二）出張部員
（三）賞与表
（四）必携
（五）軍艦掛個人名簿
（六）位数



四月一日

[illegible]突入シ相当ノ戦果ヲ挙ゲタルハ確実ナルモノノ如シ
敵遂ニ嘉手納ニ上陸ス
作戦指導方針ハ「アリゾナ」海上（「アリーナ」）撃滅ニ指向スルニ変更
シ大木中佐、大町大佐等協力シテ準備ニ努メシモ
本島ニ在リシ若干ノ第三十七大隊ハ極力⑥
温存ニ努ムルモ逐日其ノ数ヲ減ズ
船舶工兵部隊ハ大発艇ニ依リ若干ノ兵員及弾薬ヲ揚陸
ヲ実施シ敵艦艇ノ要部ニ動カシタルモ成功セズ大発ハ
敵ノ砲撃ノ為悉ク破壊セラレ三月上旬ニ至リ両戦隊
共ニ皆無トナリ補充、整備ニ努メシモ[illegible]
両戦隊共ニ夫々ノ位置附近ヲ守備ス[illegible]
夜間戦闘ノ新攻撃隊ヲ出動セシメタリ
其ノ後菊水部隊ヲシテ前後二回ニ亘リ嘉手納泊地ニ突
入セシメタルモ其中僅ニ五、六隻撃沈セシノミニシテ他ハ
リーフ及敵ノ哨戒艦艇ニ遮ラレ又ハ小型ノ故ヲ以テ全部
成功セズ⑥ハ逐次撃沈シ使用不能トナリ戦隊長以下ハ第
三十二師団ニ配属シ地上戦斗ニ移行ス

四月上旬ニ於テ慶良間方面ノ[illegible]
海峡ニ在リシ[illegible]
[illegible]
慶良間[illegible]
稲垣少佐[illegible]
[illegible]
[illegible]
稲垣少佐ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

数度ニ亘リ突入セシメ相当ノ戦果ヲ収メ[illegible]
[illegible]

艇隊ヲ失ヒ重ネテ[illegible]ヨリ中頭[illegible]方面ニ上陸セシメ[illegible]
戦ヲ容易ナラシメントシ船舶工兵第二十三聯隊及第
[illegible]渡ヨリ第七[illegible]隊ノ主力ヲ以テ之ガ掩護及輸送ニ任
ジ船舶工兵第二十六聯隊ヲ以テ所要ノ方面ヨリ第二十六[illegible]
衛所ノ挺進ヲ以テ之ガ掩護及輸送ニ従ヒ[illegible]
輸送ニ当ラシメ第五十六聯隊ハ[illegible]成功ス[illegible]
爾後[illegible]ヲ図リタルモ実施スルヲ得ス残部ハ同聯隊
付[illegible]大尉之ヲ指揮シ専ラ海上ゲリラヲ準備セシ
モ五月下旬ニ至リ所要方面ノ地上戦斗ニ参加スベク
第二十四師團ニ配属セラル 船舶工兵第二十三聯隊ハ
[illegible]退シ第四十四旅団ニ配属セラル 五月上旬ニ於テ[illegible]
ニ於ケル戦斗[illegible]ハ不明ナルモ一部ハ[illegible]方面ニ[illegible]
[illegible]陸軍船舶工兵[illegible]隊長[illegible]第二十七第二十[illegible]
長ハ戦死セリ[illegible]
[illegible]極力之ヲ[illegible]
ルモ突入スルニ至ラズシテ成果ナシ

大隊長
松山大尉以上（ゲリラ実施不能トナリ専ラ地上戦斗ヲ準備スベク命令
ノ発令ヲ以テ）ノ大隊ヲ編成（船舶隊司令部ハ別ニ一中
中隊長
佐治少尉
隊ヲ編成）シ真壁村附近ノ守備ニ任ズ
五月二十八日頃軍命令ニ依リ同司令部ハ真栄里[illegible]高嶺村
ニ転進 右大隊ハ五月三十日頃[illegible]東方地区ニ転進ス
六月一日頃海上挺進隊ハ独立混成第四十四旅団長ノ指揮下
ニ入リ仲座附近ノ守備ニ任ジ仲座附近ニ於テ所謂最後ノ戦
斗ニ参加シ玉砕ス 同戦斗ノ結果トナル時ニ六月二十日頃ナリ
海上挺進隊長タリシ大本中佐其ノ他数名ノ部下ト共ニ
脱出ニ成功シ国頭附近ニ至リタル際（七月十日頃）敵ノ掃
討ニ遭ヒ戦死セル模様ナリ
戦斗ノ経過ハ概要図別紙ノ如シ

四、戦斗間ノ特異事項
戦斗前ノ作戦計画ニ依ル各隊ノ行動ニ於テハ相当期間（約一ヶ
月）ノ糧食ヲ集積シアリタルモ作戦計画ノ変更ニ従ヒ

常ニ輜重ノ運搬ヲ困難ナリセシメタル外令材ル給養ハ実施サレス
又傷病者ハ敵砲撃ノ為ニ其ニ依リ相當ノ損害ヲ蒙リタリ特
ニ長距離ニ亘リ運搬ハ甚タ困難ナリ
情況ニ在リ

五、兵器弾薬ノ状況

船舶隊ノ主要兵器ハ⑪並ニ大発動艇ナリ、然シテ一〇〇名搭載
萬全ノ努力ヲ払ヒタルモ機関ノ新品不足及取扱方法ノ不徹底等未熟ノ為ニ
方法ノ不徹底等未熟ノ為ニ⑪ニ於テハ〇名大発動艇ニ於テ
約四〇名搭載シ得タルノミナルモ使用前ニ於テ格納設備
等ノ不備ノ為メ遂ニ敵弾ニ依リ損傷シ大発ニ於テハ全艇⑪
ニ於テハ慶良間部隊ノ今ヲ除キ約六〇名使用不能トナル、
燃料関係ハ作戦開始ノ当初ニシテリタルモ使用量ヨリモ敵弾ニ
依ル損耗多ク、爆雷ハ相當数不足シテリタルモ使用能ハサリ
メ全部ヲ使用セズ、他ノ陸上兵器ハ作戦中要領セルモノ多ク
不能ハ焼付多ク、手榴弾ハ各人ヲ位ノ割合ニ使用セルノミナリ特殊ツク使用ヲ制限セラレタリ
ニシテ而モ其ノ式ニシテ想定92頁参照ハ弾薬ツク使用ヲ制限セラレタリ

之ヲ要スルニ苦心ノ整備モ敵ノ為メニ水泡トナリタル点多シ
以テ使用シタルモ少シ

六、衛生状況

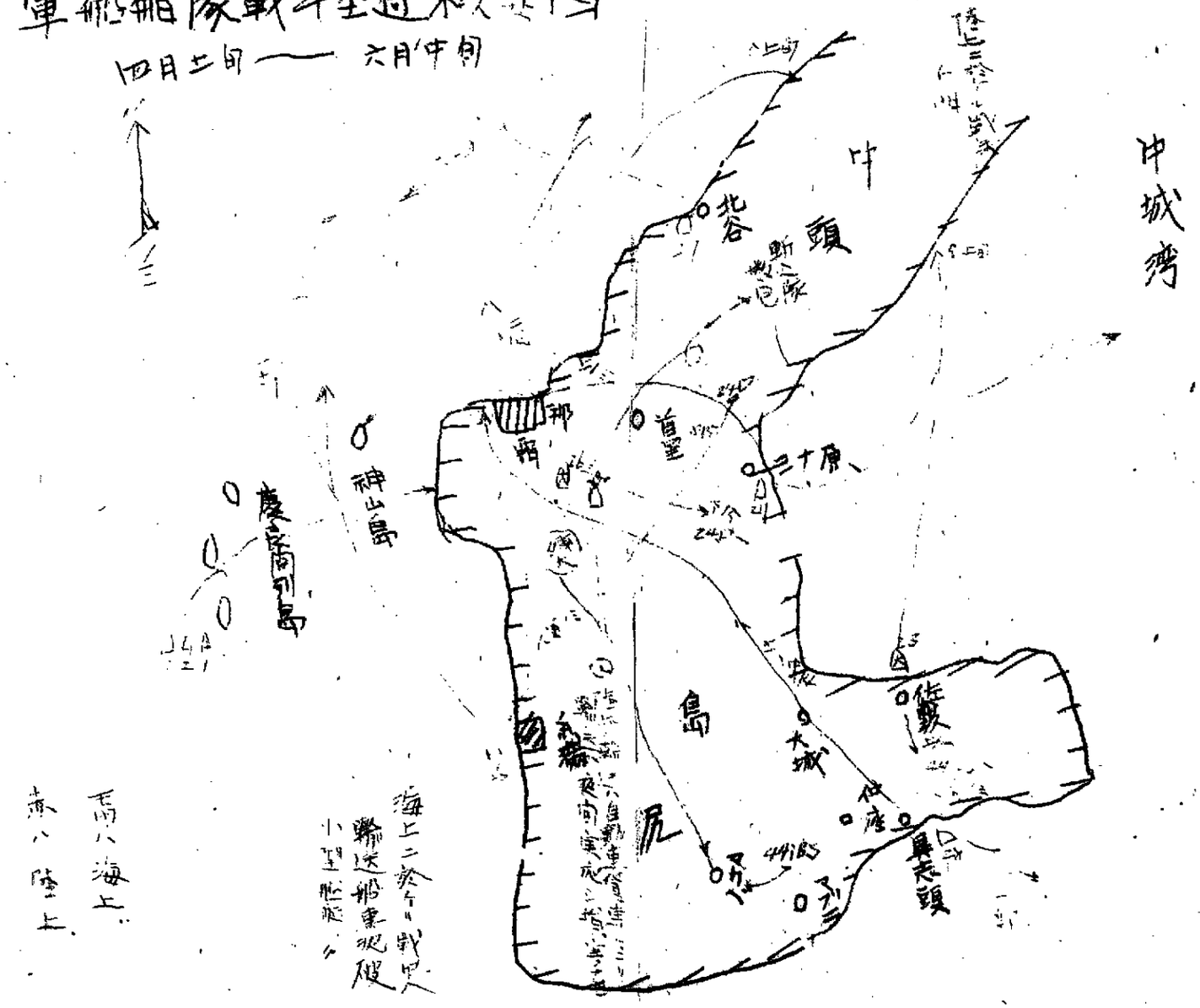
作戦間終始壕内生活ヲ強イタルモ更ニ疫病流行セス、
負傷者ハ不自由ナル壕内生活ナルモ不衛生極リナキ壕内ニ於テ衛
生部員ヲ駆リ出スルノミニシテ十分ナル治療ヲ施シ手厚ク転進
ニ際シテハ其ノ処置ニ苦シミタル様報ナリ

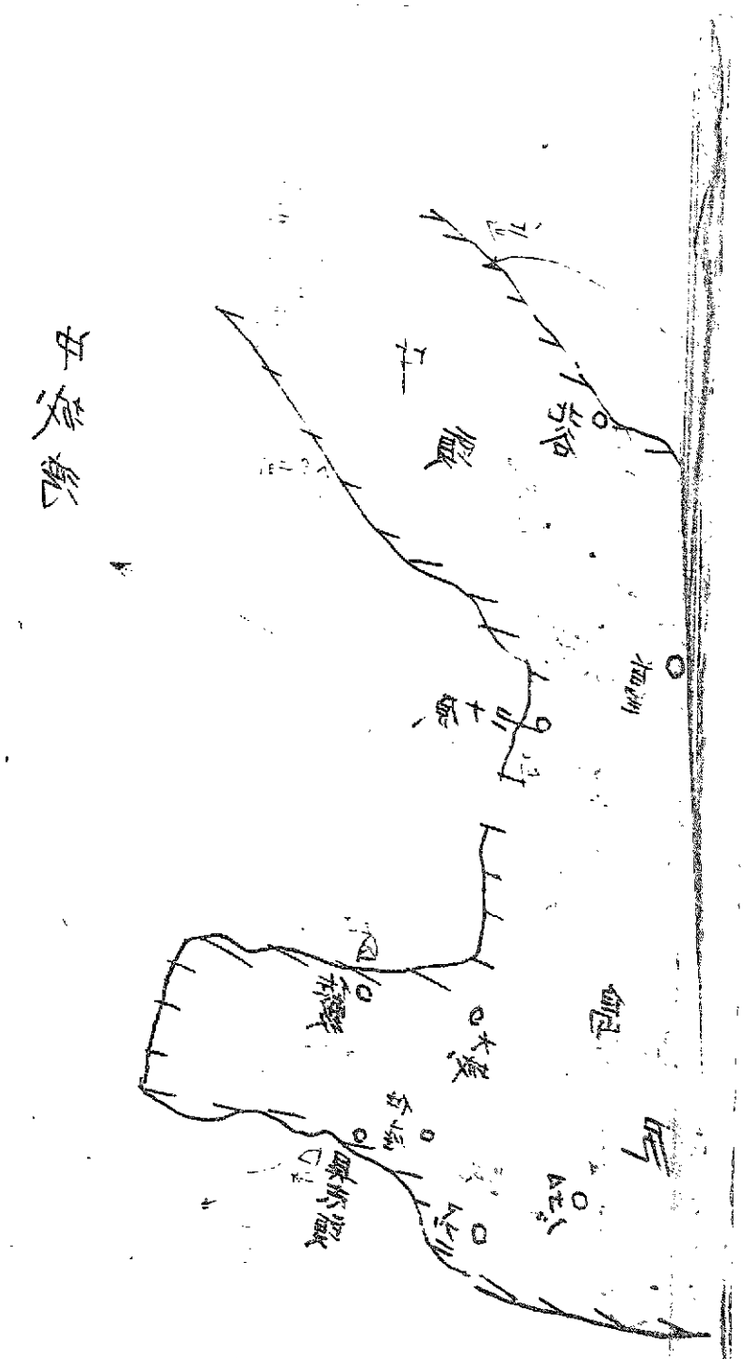
七、築城ノ状況

作戦開始前ニ於テ
司令部ハ約二〇〇名位搭シアリタルモ作戦間ハ〇名ヲ完了セリ、
転進後ハ略達式壕ノミ、
各隊ハ約五〇名位搭シアリタルモ弁機壕ハ敵進ノ為最後
迄使用シタルモノイク尚敵ノ大ニ対シ抵抗力弱シ

軍艦艦隊戦斗経過概要図

四月上旬 —— 六月中旬





脚部隊ハ今迄ノ功績ヨリ五月廿四日部隊編成ヲ極ヒ大佐ル又同第
集ヨリ到長セル山下大尉及神山長兵衛大尉等ヲ
モ各ニ感状ヲ授ケサル又同ハ遠藤結隊ニヨル後上陸長ノ戦況ノ
変化ニヨリ困難トナリ多くハ出ス戦ヲ部隊トナルベク兵器弾
薬ノ点検、元寇ニ遠進ス、石塚大尉ハ指揮下部隊ヲ以テ大隊
編成ヲナシ大隊長トナル、同時ニ同ハ平賀大部隊ト合シ松上戦ヲ
部隊トナル、

廿三日頃ヨリ上陸軍ノ首里前面ニ対スル攻撃開始トナリ軍
司令部ハ摩文仁ニ後退スルノ止ムナキニ至リ同トシテモコニ於テ警
田川部隊ヨリ新進スベキ準備ヲナス、

松山高級副官中佐長トナリ設置、丸本西大尉城戸、峰村
両見士各ニ第八及第四中隊長トナリ長堂洞窟作業派
遣セル八佐中尉ノ準備セル長堂ノ洞窟ニ後退スベシ、ナレハ五月
二十八日頃ヨリ、第一線退ニアタリテハ青年義勇隊ヨリ兵隊ヨリ
ヨリ中隊毎ニ食糧弾薬等ヲ補給ス、

中城湾

場、津高松山ヲ発シ逆撃ス、最後ノ日ニ今迫ノ洞窟ヲ爆破シ長堂ニ後退ス、長堂洞窟ニ夜ヲ明スト雖モ今度敵ノ猛、大量ヲ発シテ眞栄平、眞栄平、眞洋里ヘト遅撤ス、此夜ヨリ天候悪ク雨ガ續ク照明弾迫撃砲等ノ爆烈ナル中ヲ連夜行軍スカシテ遂夜行軍ヲナシ仲座ニ到リコヽニ於テ独混四散隊ノ指揮下ニ入リ仲座東方高地ヲ構築ス、

斉ハ白松山大尉石垣大尉ト交代大隊長トナル、石垣大尉ハ平賀部隊ノ中隊長トシテ波部大尉ト共ニ平賀部隊長麾下松山大尉及指揮班十三名ハ仲座高地ヨリ石垣大尉ノ陣地タル仲座東方五三高地ニ行ク途川方面ヨリノ敵攻撃ヲ阻止スベク準備ス、五三高地附近ハ岩多ク個人壕ヲ掘ル迫撃砲、機関銃ヲ避クルヲハ不利ナル地点ナリ、松山大尉ニ代リ国ハ八重中尉中隊長トナリ丸本、竹崎両大尉ハ戸見士、生田准尉各小隊長トナル、

松山大隊ハ敵接近スルニ従ヒ迫撃砲各種ド全滅ノ状態ナリ国ノ底ル高地ニ退ル

敵上陸前

司令部ハ敵ノ沖縄攻撃開始シテハ軍迅指揮中、中城湾、金武湾トヲ想ヒ指揮不統一ニ陥ル此ノ如ク後長ヲ企図スル又敵上陸セバ相当ノ兵力第三十三師団ノ平安座島ニ於ル逆上陸ヲ企図シオリシ所西海岸ニ第一師団ノ第一線ヲ配置ス、

指揮

海上機動第一戦隊（座間味島）
海上機動第二大隊
海上機動第二戦隊（阿嘉島）
海上機動第二大隊
海上機動第三戦隊（渡嘉敷島）
海上機動第三大隊
海上機動第四戦隊（慶留間島）
海上機動第四大隊

下部隊

海上挺進第三十七戦隊（興部屯）
海上挺進第七十五戦隊（藤川）
海上挺進第七十八戦隊（北谷）
海上挺進第三十九戦隊（佐敷）
海上挺進第三十二戦隊（那覇）
海上挺進第五十五戦隊（那覇）

三月二十日船舶団長大町少佐ハ作戦指導ノ為メ慶良間列島ニ向ハル。翌二十二日ヨリ敵ノ沖縄及慶良間列島ニ対スル攻撃開始サレ団長ハ本島ヘノ帰路ヲ断タル

船舶工兵第三十二聯隊（佐敷）
船舶工兵第三十三聯隊（那覇）

三月二十四日船舶団長ハ慶良間列島ニ対スル攻撃ニ対シ上陸スベク運輸艦ニヨリ海上突破ヲ企図スベク出発サレタガ途中行衛不明トナル。

ル大木中佐団長代理トナル。

三月二十日団ハ那覇ヨリ当地方ノ洞窟ニ物資ヲ搬入

海軍作戦参謀ノ巡行ニアタル

敵艦隊ハ慶良間列島ニ接近オ来ル。慶良間列島アル第一第三警備隊ハ

ニテ本島近海ノ海上オ大、慶良間列島ニ移リ結ド通船機関ハ

既ニ艦船、航路ニ依リ結ド通船機関ハ

船舶ハ敵ニ撃沈サレタ為ニ本島ニ残ル第一第三警備隊

各戦隊ノ本島ニ残ル者ガ本島近海ニ敵ノ状態トナル、沖縄本島ノ

少ク間司令部ハ海軍ノ下士官ハ不眠不休ノ洞窟作業ニ従事シ今

後ノ戦ニ三月迄ハ持ナキ事ハ、慶良間列島ニ通船ハ現在ニ至ル

敵ノ本島上陸ノ際シ上陸者ガ本島ノ戦線ニ出来ル

期ヲ待ズ

敵上陸後

得ニ八日ハ敵ハ海軍艦艇ニ依ル猛烈上陸ニ対シ艦艇ニ依ル猛烈ナル砲撃ヲ加ヘルベク本島ノ戦線ニ出来

以後艦ハ慶間慶良間方向ニ進撃スル為メ孔ニ艦砲射撃ヲ加ヘ

未ダズ北泉方面ヨリノ敵前ニヨリ運輸艦ノ船舶ニ対シ多大ナル戰果ヲ挙ゲタル事ヲ知リ帝国臣民百倍極力協力果スル運輸艦ノ運航ヲ計ルベク各隊ニ通知ス、又阿蘇泉ヨリ山下、稲塚間少尉候補生ヲ在ヒ運輸艦ニヨリ海上現行実態ヲ視察ニ到着ス、道中敵艦船ヲ攻撃多大ナル戰果ヲ挙ゲ評観依

敵ニ於ケル最初ノ運輸艦ニヨル戰果ヲ挙ゲ、コレニ依リ運輸艦ハ船舶ノミナラズ巡洋艦、駆逐艦ニ対シテモ撃破或ハ大破ヲラシ戦力アルヨ実證ス、前後シテ船舶関長大町大佐ノ度及ビ川崎泉他職員等ニ隨行セル第五基隊ノ数名ノ戰績ニ之ハ依ル数名ノ数名ヨリ同リ井ニヨリ脱出本泉ニ到着ス、以上ヨリ泉ノ状況及ビ敵軍ノ八小艦艇ノ警戒厳ナルヲ知ル、一方同トシテハ大本中佐ノ本部ノ泉ノ完備ニ努力シ陸軍司令部ノ首里最後ノ最後迄固守スルノ覚悟ヲ固メ一致団結ノ仕務ニ邁進ス、此ノ間丸ヶ谷所トスベク決心ヲ固メ一致団結ノ仕務ニ邁進ス、此ノ間丸ヶ谷所ヲ科長トスル通信科ハ結ド連日基シ暑ノ洞窟内デ同リ上ノ業務ニ邁進ス、軍司令部及指揮本部隊トノ連絡ニ支障ナキヲ来ス事ヲ記躍ス、

有線電話ハ敵砲弾ヲ以テ断線ス、及後ハ敵ノ妨害ヲ排除シ修復ノ間断ヲミテハ洞窟ヨリ出ヲ敵弾ニ倒ス、仕業ヲ継続ス

日々指揮本部隊ヨリノ敵情報告ハソノ都度報告シ軍

諸隊ノ動静ハ常ニ敵国内ニ潜伏ヲ敵ヲ探知シ情報ヲ

事令部通信隊ヲ通報シ敵艦船ノ一部ニ

対成セントセル好機近ジイリ、敵ハ神山泉ニ上陸同時ヨリ

本泉ニ対シ攻撃ニ砲撃ヲカス、フレニ対シ関大佐指揮ノ第三

敵後御岡大尉ヲシテ新ヲ京ヲ

隊（ヨリ井ヨリ）ハ夜陰ニ乗ジ

取行陽ヲ船隊ハ戰果ヲ挙ゲ

ヨリ神山泉ヨリスル本泉砲撃ハ

艦船ニ近ク第三、同第三ヲ

艦砲及航空機ノ援ヲ

座間味泉ヨリ艦船ニ近ク第三

ル八月ニ同リ井ニヨリ挙ゲ戦

八下

敵ハ現ル、

上陸前ニ

大発ハ敵

ド

ナリ

ル中ノ午ヲ

ル護ノ

為到着ス、唐間味ノ通信機械ハ全部破壊セラレタル
トノ状態故国ニ帰ヲ二先ニ最ニ到着ス、其他文書
信機材ヲ携行セシメ可リ且ニヨリ未発ロシム、コレノ至ル位置ハ
間味ヨリ慶良間列島最近海ノ艦船状況ノ報告デアリタ。
敵艦船ニ対スル水上特攻隊ノ為ニハ機動シ四日未及昼ニ中間
ト敵国ニワタリ豪雨霧海、船舶海上及空襲ニ行ナハンヤノ
度ニヨリ大ナル敵果ヲ考ヘ、此ノ班長ハ遠中小艦船ノ撃沈ヲ
潜リ敵行オレタ、又今撃墜シテモ遠中ノ小艦船ニハ少ナレ大艦
船ヲ発見シ得ズ、無念ノ涙ヲシボリ引ク返シタ事モアリ、
此ノ為ニ対シテハ気象、風波ノ状態及艦船ノ状況等アラユル面
ヨリ研討シテ今ノ日時ヲ決定シタ、又水上特攻隊ノ成果解釈ハ
相当ニ困難ヲ伴フ故ニ為ニ今ニテハ国デハ特攻ヲシテ所期ノ目的
ヨリ今ノ成果期待セサルベキ海道シタ、連絡機ヨリ敵撃ト相呼
應ヲシテ船舶二千弟三千六艦改ヲシテ可リ生ニル為ニ外道ヲ
討成実施ス、コレハ我命令ヲ敢行ガウズ必敢ニ期ス。

此ノ頃ヨリ軍司令部トノ連絡ジカズ、国トシテハ既何トモスベカ
ラク命ヲ下ス、斯クシテ各中隊長ヲ引ク下敵第一線
ヲ突破スベク行動ス、此ノ時道ハ此ノ時各部隊ハ乱レ摩又
仁ノ海岸線帯ハ国頭突破スベクト混乱状態デアシタ
コヽニ於テ最早船舶団ノ状況ハ全然不明トナル